

専門性進む熊本の医療機関

医療

地域医療最前線

The medical treatment front

がん患者のリハビリテーション開設

来年4月のオープンを目指し、同地で病院の建て替えを計画している鶴田病院(熊本市保田窪本町、鶴田克明理事長・総院長)は、新病院開業と同時に設置する緩和ケア病棟(20床)の開設に先立ち、4月からがん患者のリハビリテーションを開始します。がん患者の早期の社会復帰やQOL(生活の質)を高めることを目的としたがんのリハビリテーション(以下リハビリ)について、担当医師の鶴田豊診療部長に話を聞きました。

術後の回復を早め、QOL向上

がん患者のリハビリを開設される背景は、

鶴田 医療技術の進歩に伴い、がんの死亡率は年々減少傾向にあり、5年生存率も着実に改善されています。今やがん患者の半数以上が治るようになり、まさに「がん共存する時代」です。しかし、日本ではがんの進行や治療によって受けた身体的・心理的なダメージに対し、積極的なリハビリがほとんど行われていません。欧米では既にがん治療の重要な分野として、リハビリが位置づけられていますが、国内では専門施設や専門医、療法士が非常に少ないのが現状です。早期からターミナル期まで、適切なリハビリを行うことで患者の回復力やQOL(生活の質)は驚くほど改善され、早期の社会復帰も可能になります。当院ではこうした背景から、がん医療の質の向上に貢献することを目的に、がん患者のリハビリを開設することを決めました。

「がんのリハビリが遅れているのは、その必要性や利点がよく理解されていないことも要因だと思います。鶴田 確かにそうした側面は否定できないでしょうね。しかし、医療現場ではがんの直接的影響や手術、化学療法、放射線治療などで身体障害を有する症例に対し、障害の軽減、運動機能低下や生活機能低下の予防・改善、介護予防を目的としたがん患者のリハビリが少しずつ増えており、がんに伴う身体障害はリハビリ科の主要な治療対象となっています。現に当院でも、入

院でリハビリを受けられている方の4分の1が、がん患者です。鶴田 リハビリには、がん医療全般の知識が必要とされると同時に、運動麻痺、摂食・嚥下(えんげ)障害、浮腫(むくみ)、呼吸障害、骨折、切断、精神心理などの障害に対する専門的な知識や技術が必要です。当院では、昨年12月、医師、理学療法士、言語聴覚士、看護師の4名ががんリハビリの研修を受け、専門の知識を習得しています。今後さらに院内の勉強会で医療ソーシャルワーカーや管理栄養士、薬剤師も含め、他のスタッフの教育を行い、病院全体で専門知識の共有化を図っていきます。

「がんリハビリには、どのようなスタッフが携わるのですか。鶴田 がんリハビリには、がん医療全般の知識が必要とされると同時に、運動麻痺、摂食・嚥下(えんげ)障害、浮腫(むくみ)、呼吸障害、骨折、切断、精神心理などの障害に対する専門的な知識や技術が必要です。当院では、昨年12月、医師、理学療法士、言語聴覚士、看護師の4名ががんリハビリの研修を受け、専門の知識を習得しています。今後さらに院内の勉強会で医療ソーシャルワーカーや管理栄養士、薬剤師も含め、他のスタッフの教育を行い、病院全体で専門知識の共有化を図っていきます。

「がんリハビリには、どのようなスタッフが携わるのですか。鶴田 がんリハビリには、がん医療全般の知識が必要とされると同時に、運動麻痺、摂食・嚥下(えんげ)障害、浮腫(むくみ)、呼吸障害、骨折、切断、精神心理などの障害に対する専門的な知識や技術が必要です。当院では、昨年12月、医師、理学療法士、言語聴覚士、看護師の4名ががんリハビリの研修を受け、専門の知識を習得しています。今後さらに院内の勉強会で医療ソーシャルワーカーや管理栄養士、薬剤師も含め、他のスタッフの教育を行い、病院全体で専門知識の共有化を図っていきます。

「がんリハビリには、どのようなスタッフが携わるのですか。鶴田 がんリハビリには、がん医療全般の知識が必要とされると同時に、運動麻痺、摂食・嚥下(えんげ)障害、浮腫(むくみ)、呼吸障害、骨折、切断、精神心理などの障害に対する専門的な知識や技術が必要です。当院では、昨年12月、医師、理学療法士、言語聴覚士、看護師の4名ががんリハビリの研修を受け、専門の知識を習得しています。今後さらに院内の勉強会で医療ソーシャルワーカーや管理栄養士、薬剤師も含め、他のスタッフの教育を行い、病院全体で専門知識の共有化を図っていきます。

「がんリハビリには、どのようなスタッフが携わるのですか。鶴田 がんリハビリには、がん医療全般の知識が必要とされると同時に、運動麻痺、摂食・嚥下(えんげ)障害、浮腫(むくみ)、呼吸障害、骨折、切断、精神心理などの障害に対する専門的な知識や技術が必要です。当院では、昨年12月、医師、理学療法士、言語聴覚士、看護師の4名ががんリハビリの研修を受け、専門の知識を習得しています。今後さらに院内の勉強会で医療ソーシャルワーカーや管理栄養士、薬剤師も含め、他のスタッフの教育を行い、病院全体で専門知識の共有化を図っていきます。

「がんリハビリには、どのようなスタッフが携わるのですか。鶴田 がんリハビリには、がん医療全般の知識が必要とされると同時に、運動麻痺、摂食・嚥下(えんげ)障害、浮腫(むくみ)、呼吸障害、骨折、切断、精神心理などの障害に対する専門的な知識や技術が必要です。当院では、昨年12月、医師、理学療法士、言語聴覚士、看護師の4名ががんリハビリの研修を受け、専門の知識を習得しています。今後さらに院内の勉強会で医療ソーシャルワーカーや管理栄養士、薬剤師も含め、他のスタッフの教育を行い、病院全体で専門知識の共有化を図っていきます。

「がんリハビリには、どのようなスタッフが携わるのですか。鶴田 がんリハビリには、がん医療全般の知識が必要とされると同時に、運動麻痺、摂食・嚥下(えんげ)障害、浮腫(むくみ)、呼吸障害、骨折、切断、精神心理などの障害に対する専門的な知識や技術が必要です。当院では、昨年12月、医師、理学療法士、言語聴覚士、看護師の4名ががんリハビリの研修を受け、専門の知識を習得しています。今後さらに院内の勉強会で医療ソーシャルワーカーや管理栄養士、薬剤師も含め、他のスタッフの教育を行い、病院全体で専門知識の共有化を図っていきます。

「がんリハビリには、どのようなスタッフが携わるのですか。鶴田 がんリハビリには、がん医療全般の知識が必要とされると同時に、運動麻痺、摂食・嚥下(えんげ)障害、浮腫(むくみ)、呼吸障害、骨折、切断、精神心理などの障害に対する専門的な知識や技術が必要です。当院では、昨年12月、医師、理学療法士、言語聴覚士、看護師の4名ががんリハビリの研修を受け、専門の知識を習得しています。今後さらに院内の勉強会で医療ソーシャルワーカーや管理栄養士、薬剤師も含め、他のスタッフの教育を行い、病院全体で専門知識の共有化を図っていきます。

「がんリハビリには、どのようなスタッフが携わるのですか。鶴田 がんリハビリには、がん医療全般の知識が必要とされると同時に、運動麻痺、摂食・嚥下(えんげ)障害、浮腫(むくみ)、呼吸障害、骨折、切断、精神心理などの障害に対する専門的な知識や技術が必要です。当院では、昨年12月、医師、理学療法士、言語聴覚士、看護師の4名ががんリハビリの研修を受け、専門の知識を習得しています。今後さらに院内の勉強会で医療ソーシャルワーカーや管理栄養士、薬剤師も含め、他のスタッフの教育を行い、病院全体で専門知識の共有化を図っていきます。

「がんリハビリには、どのようなスタッフが携わるのですか。鶴田 がんリハビリには、がん医療全般の知識が必要とされると同時に、運動麻痺、摂食・嚥下(えんげ)障害、浮腫(むくみ)、呼吸障害、骨折、切断、精神心理などの障害に対する専門的な知識や技術が必要です。当院では、昨年12月、医師、理学療法士、言語聴覚士、看護師の4名ががんリハビリの研修を受け、専門の知識を習得しています。今後さらに院内の勉強会で医療ソーシャルワーカーや管理栄養士、薬剤師も含め、他のスタッフの教育を行い、病院全体で専門知識の共有化を図っていきます。

「がんリハビリには、どのようなスタッフが携わるのですか。鶴田 がんリハビリには、がん医療全般の知識が必要とされると同時に、運動麻痺、摂食・嚥下(えんげ)障害、浮腫(むくみ)、呼吸障害、骨折、切断、精神心理などの障害に対する専門的な知識や技術が必要です。当院では、昨年12月、医師、理学療法士、言語聴覚士、看護師の4名ががんリハビリの研修を受け、専門の知識を習得しています。今後さらに院内の勉強会で医療ソーシャルワーカーや管理栄養士、薬剤師も含め、他のスタッフの教育を行い、病院全体で専門知識の共有化を図っていきます。



▲がんリハビリテーションのスタッフ

呼吸や嚥下、運動機能回復に効果

「具体的ながんリハビリについては、鶴田 がんリハビリには、まず手術による合併症を予防する目的で行われるものがあります。肺がん、胃

「具体的ながんリハビリについては、鶴田 がんリハビリには、まず手術による合併症を予防する目的で行われるものがあります。肺がん、胃



鶴田病院 豊 診療部長 鶴田 豊

「がん共存する時代」

「今後、がん医療にはリハビリが重要になってきますね。鶴田 そうですね。がんの5年生

「今後、がん医療にはリハビリが重要になってきますね。鶴田 そうですね。がんの5年生

「今後、がん医療にはリハビリが重要になってきますね。鶴田 そうですね。がんの5年生

「今後、がん医療にはリハビリが重要になってきますね。鶴田 そうですね。がんの5年生

「今後、がん医療にはリハビリが重要になってきますね。鶴田 そうですね。がんの5年生

「今後、がん医療にはリハビリが重要になってきますね。鶴田 そうですね。がんの5年生

「今後、がん医療にはリハビリが重要になってきますね。鶴田 そうですね。がんの5年生

「今後、がん医療にはリハビリが重要になってきますね。鶴田 そうですね。がんの5年生

「今後、がん医療にはリハビリが重要になってきますね。鶴田 そうですね。がんの5年生

「今後、がん医療にはリハビリが重要になってきますね。鶴田 そうですね。がんの5年生

「今後、がん医療にはリハビリが重要になってきますね。鶴田 そうですね。がんの5年生

「今後、がん医療にはリハビリが重要になってきますね。鶴田 そうですね。がんの5年生

「今後、がん医療にはリハビリが重要になってきますね。鶴田 そうですね。がんの5年生

医療法人社団 鶴友会

鶴田病院

〒862-0925 熊本市保田窪本町10-112
TEL096-382-0500 FAX096-382-0592

診療科目
 外科 消化器内科 消化器外科 内科 循環器内科
 呼吸器科 泌尿器科 整形外科 リハビリテーション科 肛門科 放射線科
 脳神経外科

診療受付
 *月～金曜日 8:40～12:00/13:50～17:30
 *土曜日 8:40～12:00
 *休診日 日曜・祝日

http://www.kakuyuukai.or.jp

がん予防は生活習慣の改善から

がん予防で重要なのは、①食生活②生活習慣③運動です。国立がんセンターは、この3つについて、「がんを防ぐための12カ条」を発表しています。

《がんを防ぐための12カ条》

- ① バランスのとれた栄養をとる
- ② 毎日、変化のある食生活を
- ③ 食べ過ぎをさけ、脂肪はひかえめに
- ④ お酒はほどほどに
- ⑤ たばこは吸わないように
- ⑥ 食べ物からビタミンと繊維質のものを多く摂る

- ⑦ 塩辛いものは少なめに、熱いものは冷まして
- ⑧ 焦げた部分はさける
- ⑨ かびの生えたものに注意
- ⑩ 日光に当たり過ぎない
- ⑪ 適度にスポーツをする
- ⑫ 体を清潔に



ご覧の通り、これらは目新しいものではなく、長年、一般的な健康作りに良いと言われてきたものばかりです。日ごろの生活を総点検し、12カ条を少しずつでも取り入れてみてはいかがでしょうか。

親子のコミュニケーション講座

子どもを生み、自立した大人への育成とは(44回)

「二人の人間を生み、養い、社会の中で自立した一人になるまで育てる」これが親の役割です。親は子どもの成長に大きな責任があります。そのために必要なものがコミュニケーション能力です。ここでは親と子のコミュニケーションのとり方についてアドバイスします。

【今月のテーマ】

『反抗期』(幼少期編)

と思ってしまうことも。



親業訓練インストラクター 津川 育子

子育てをする上で、必ず遭遇するのが「反抗期」です。

親子の衝突が起こることから、親も子も悩み、たくさんのストレスを溜めてしまう時期でもあります。けれどこの「反抗期」は、子どもが大人になっていく一歩なのです。今回は反抗期における親子の在り方について考えていきましょう。

反抗期には大きく分けて二つの時期があります。今回は幼少期に起こる第一次反抗期についてです。別名「イヤイヤ期」とも言います。この時期の子どもは、何でもかんでも嫌がり、例えば、

- 「ご飯食べようね」「イヤー!」
- 「お散歩行こうね」「イヤ!」
- 「お風呂入ろうね」「イヤ!」

子どものわがままだとイライラしてしまいがちですが、これは自我が芽生えて「自分を主張したい欲求」が出て来ている証拠。

それまでは素直にママの言う事に従って来ていた我が子が、自分の意志を主張し始める事で、互いの思いがぶつかりあってしまう。でもこれって、人間関係で考えれば、至極当然のことです。

ついつい子ども同士の喧嘩のように怒鳴ってしまい、子どもが泣きだしてしまったり。それを見て「泣きたいのはこっちだよ」「いやいや、自分は母親なんだからしつかりなくちゃ」

先日、講演先で、興味深い文章に出会いました。

「乳児は肌を離すな。幼児は肌を離して、手を離すな。少年は手を離して、目を離すな。青年は目を離して、心を離すな」

これは、チンプンジューの子育ての上での子離れの段階なんだそうです。なかなか考えさせられますね。

(筆者プロフィール) 親業訓練インストラクター。大学卒業後、二子学院、近代経営研究所などの勤務を経て、平成10年10月人財育成サポーターを設立。22年2月に法人化。親業の勉強会・講座を随時開講。熊本県民力レジン主催講座サテライト教室子育て応援講座などの講師も勤めている。県内各地での講演も多数。美里町教育委員。子どもは3人。著書として「愛の小箱」(夫の闘病と家族模様)がある。

【問い合わせ】
☎096-342-9733
ikuko.t@eagle.ocn.ne.jp

